

茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業

令和6年度（2024年） キキョウ取組状況等

美郷町農政課

取組内容（直播き栽培手法の実用化の検証）

1 秋播種の有効性検証

- ・R4年度、9月と10月に播種したところ、秋のうちに発芽して幼苗のまま霜と雪に遭い、翌春には全滅に近い状態だった。そこで、R5年度は降雪直前に50株播種を行った。50株のうち春に発芽したのは10株（発芽率20%）で、苗の生存率は前年度を上回ったものの、その後の生育は依然として緩慢で、秋播種の有効性は他の栽培手法と比較して不利であった。



2 湿潤鹿沼土を用いた催芽直播による実用性検証

1) ねらい

播種 → 子葉展開までの日数短縮、得苗数／率の向上、雑草抑制、直根を得る、播種可能時期の拡大

2) 媒体として鹿沼土を選んだ理由

- ①酸性である（キキョウはやや酸性土壌を好むとされる）
- ②種子との混和状態が判りやすい（色が明るい）
- ③乾燥／湿潤状態の違いが判りやすい（色が変わる）
- ④入手が容易（どこのホームセンターでも売っている）
- ⑤値段が手頃（バーミキュライトよりも大抵安い）

3) 室温での催芽状況



調製（5月23日）

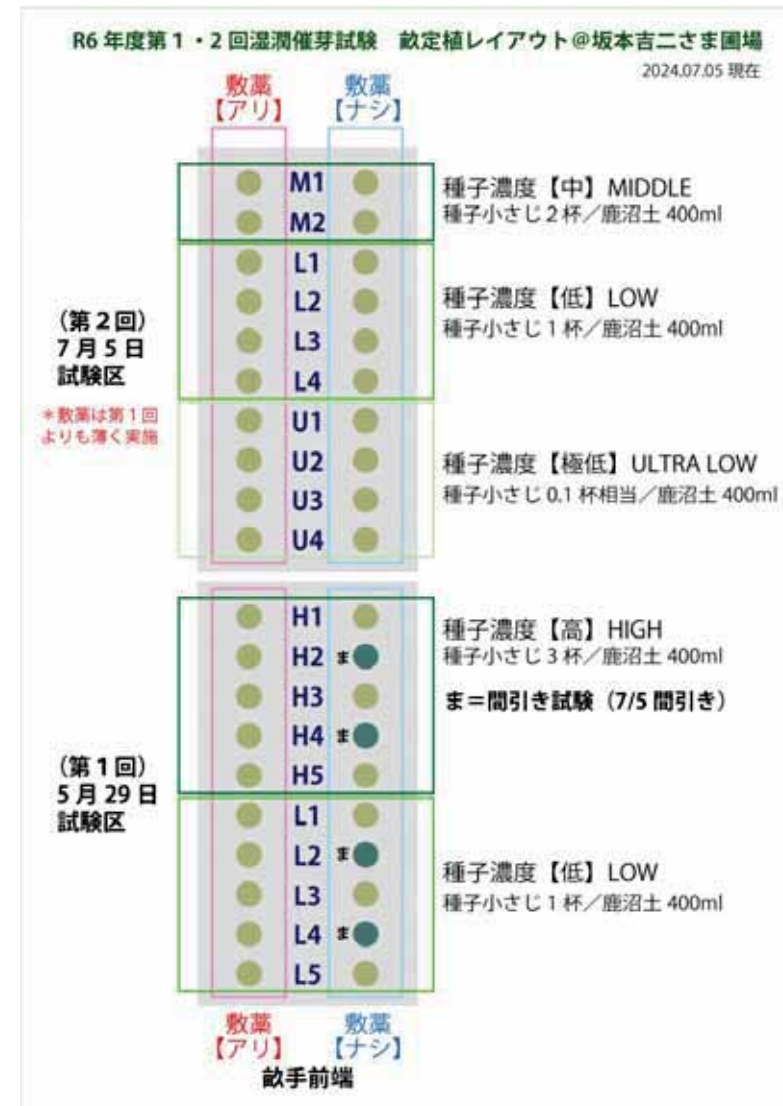
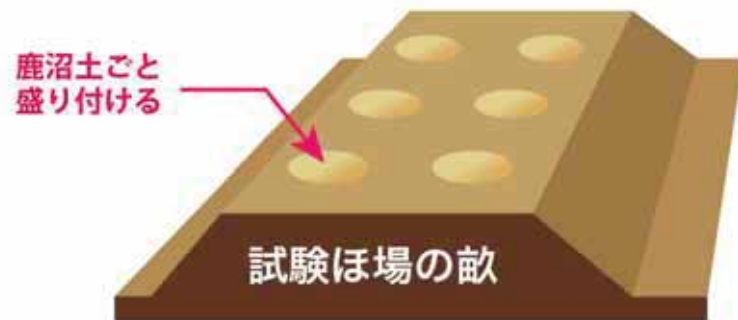
20～25℃



6日後（5月29日）
概ね5-6日で3-5mm発根

取組内容（直播き栽培手法の実用化の検証）

4) ほ場への盛付け（＝間接直播ないし定植）



諸条件の比較検討（種子密度・敷藁）

取組内容（直播き栽培手法の実用化の検証）

5) 根の生育状況



盛付け後36日



盛付け後5ヶ月
秋季補植試験へ供用



盛付け後4ヶ月
秋季補植試験へ供用



取組内容（直播き栽培手法の実用化の検証）

6) 検証結果

- ・ねらいの検証から判明しているメリット

ねらい

播種→子葉展開までの日数短縮 → 20日→**10～12日（盛付後7日）**

得苗数／率の向上 → **かなり高率に生存**

雑草抑制 → **有効**（覆土＆密植効果）

直根を得る → **有望**（4～5ヶ月時点では）

播種可能時期の拡大 → **有望**（7月盛付けも夏負けせず）

令和7年度は、2年目の根の形状を検証。

並行して令和7年度は、**催芽直播苗床**を設置・検証し、
秋季補植用苗の育苗を試み、欠株対策のひとつとしたい。

3 直播きの活用手法の可能性検証

- ・ 湿潤鹿沼土による催芽直播したものを、間引きし他圃場へ移植した。
R6.10.22：試験圃場（5.29 LOW、7.5 ULTRA LOW）を間引き
R6.10.23：農家圃場（5.29 LOW 3株、7.5 ULTRA LOW 4株）を移植



5.29定植苗



7.5定植苗

